

2018年3月期 決算説明会

2018年 5月 24日
株式会社ハマキョウレックス
東京証券取引所市場第一部：9037



【掛川センター】

- I. 2018年3月期 決算概況
- II. 2019年3月期 計画
- III. 2018年3月期 決算実績
- IV. 近物レックスの現況と今後の戦略
- V. 参考情報

I . 2018年3月期決算概況

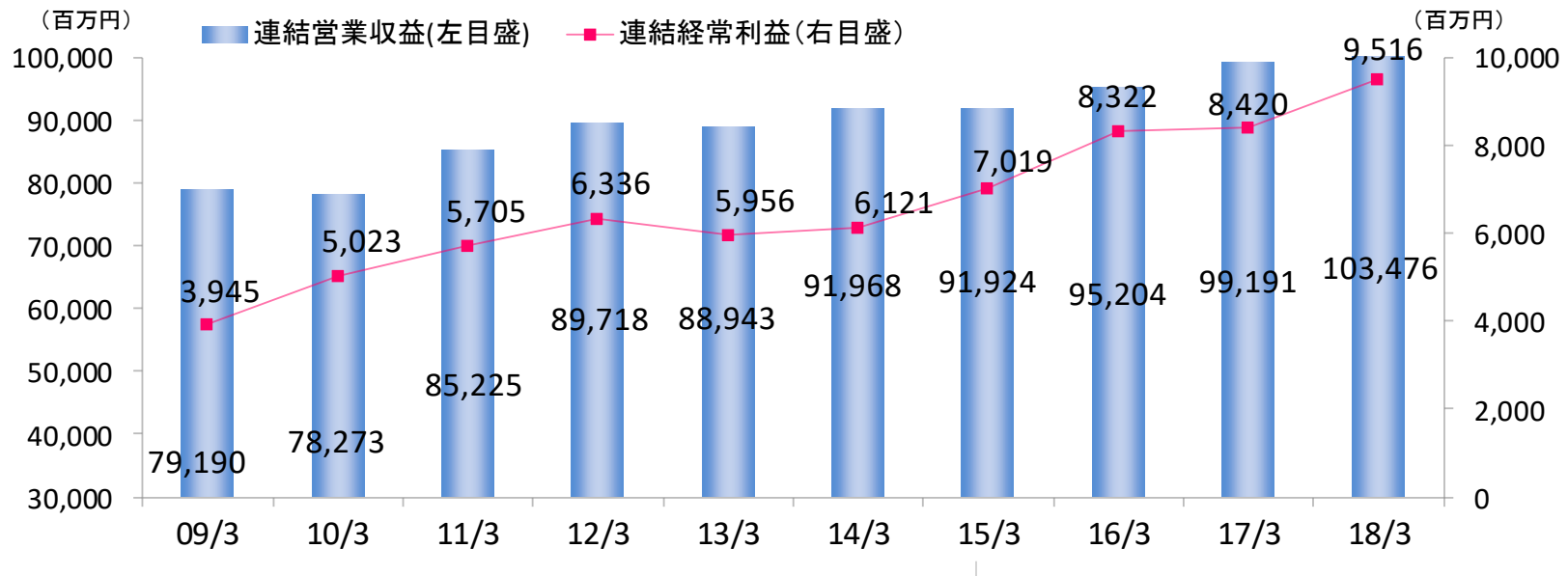
I-1. 2018年3月期の業績

営業収益は、1,034億 76百万円 (前年同期比 +4.3%)

経常利益は、 95億 16百万円 (前年同期比 +13.0%) の増収増益

項目	対前期比	対計画比 ※1	対前期比増減要因
営業収益 103,476百万円	+4,285百万円 (+4.3%)	△1,524百万円 (△1.5%)	・物流センター事業: 新規子会社取得及び新規荷主獲得 ・貨物自動車運送事業: 運賃単価是正及び物量増並びに新規子会社増
営業利益 9,029百万円	+1,081百万円 (+13.6%)	△771百万円 (△7.9%)	・物流センター事業: 既存センター改善及び新規子会社の増 ・貨物自動車運送事業: 売上増加
経常利益 9,516百万円	+1,096百万円 (+13.0%)	△484百万円 (△4.8%)	・支払利息減少 ・太陽光発電収入増加
親会社株主に帰属 する当期純利益 5,575百万円	+522百万円 (+10.3%)	△125百万円 (△2.2%)	

I-2. 業績推移



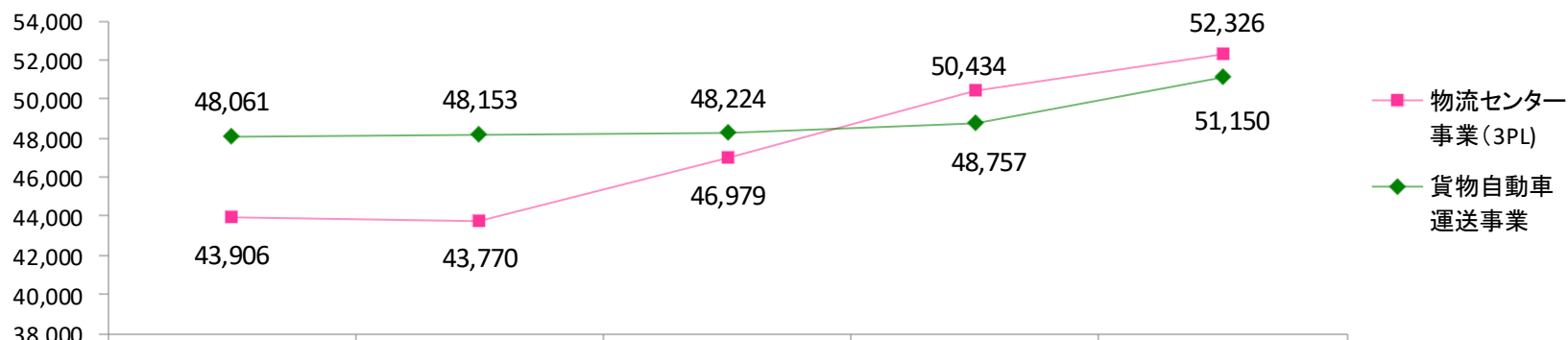
	連結業績
営業収益	増 収 (過去最高)
営業利益	増 益 (過去最高)
経常利益	増 益 (過去最高)
親会社株主に帰属 する当期純利益	増 益 (過去最高)

I-3. セグメント情報の推移

(百万円)

		2014/3 (構成比:%)	2015/3 (構成比:%)	2016/3 (構成比:%)	2017/3 (構成比:%)	2018/3 (構成比:%)	増減 (増減率:%)
物流センター 事業(3PL)	営業収益	43,906 (+47.7%)	43,770 (+47.6%)	46,979 (+49.3%)	50,434 (+50.8%)	52,326 (+50.6%)	+1,892 (+3.8%)
	営業利益	4,203	4,670	5,316	5,114	6,007	+893
貨物自動車 運送事業	営業収益	48,061 (+52.3%)	48,153 (+52.4%)	48,224 (+50.7%)	48,757 (+49.2%)	51,150 (+49.4%)	+2,392 (+4.9%)
	営業利益	1,711	2,055	2,789	2,828	3,015	+187

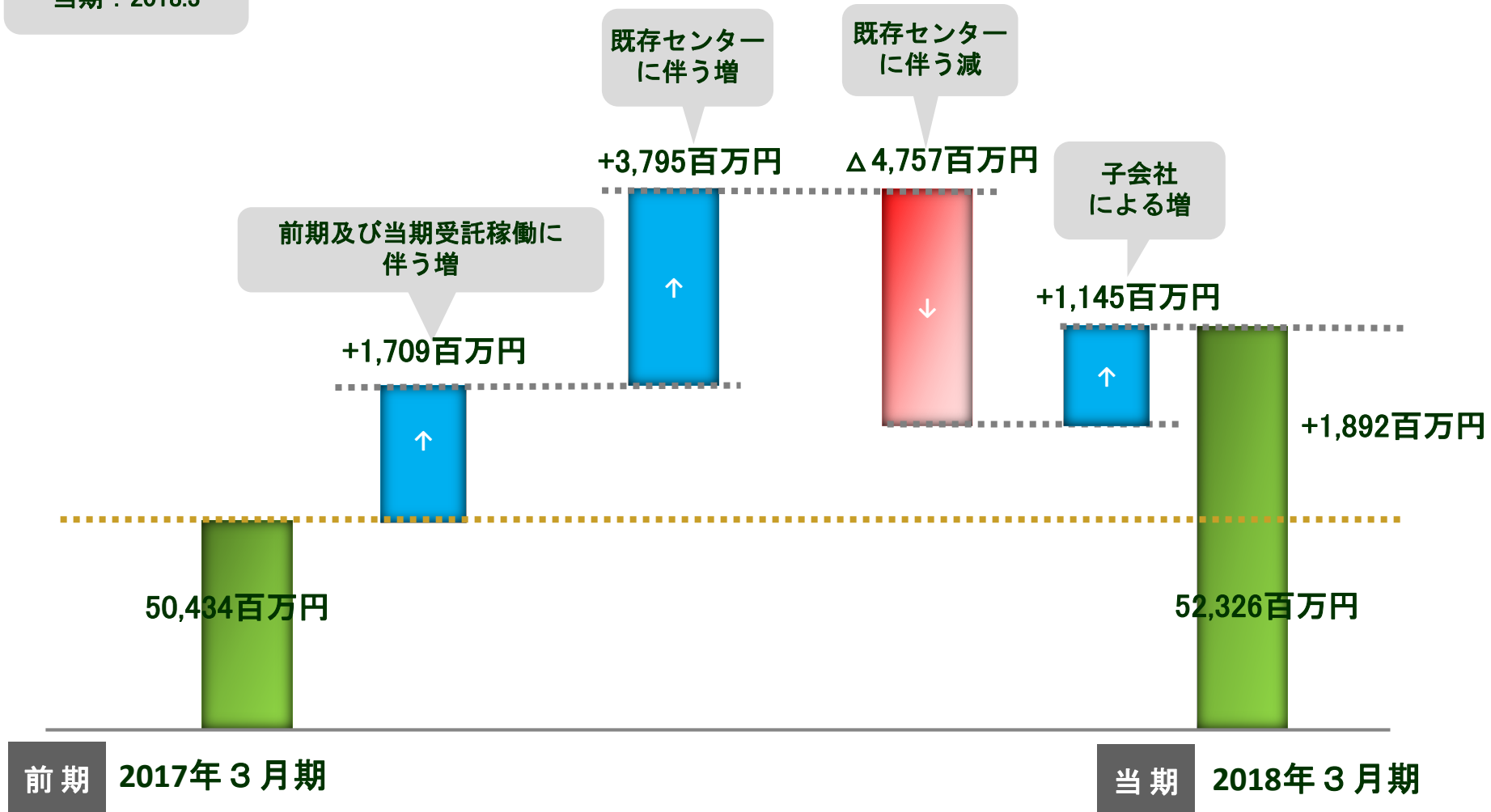
営業収益の推移



I-4. 物流センター事業(3PL)の概況

営業収益の状況

前期 : 2017.3
当期 : 2018.3



I-5. 物流センター事業の稼働状況

●新規受託及び稼働

取扱品目	前期受託 未稼働	当期 受託	稼働	当期 未稼働	memo
食品		2社	2社	-	
繊維・アパレル		5社	5社	-	
医薬・医療		1社	1社	-	
雑貨	3社	3社	6社	-	
その他		4社	4社	-	
計	3社	15社	18社	-	

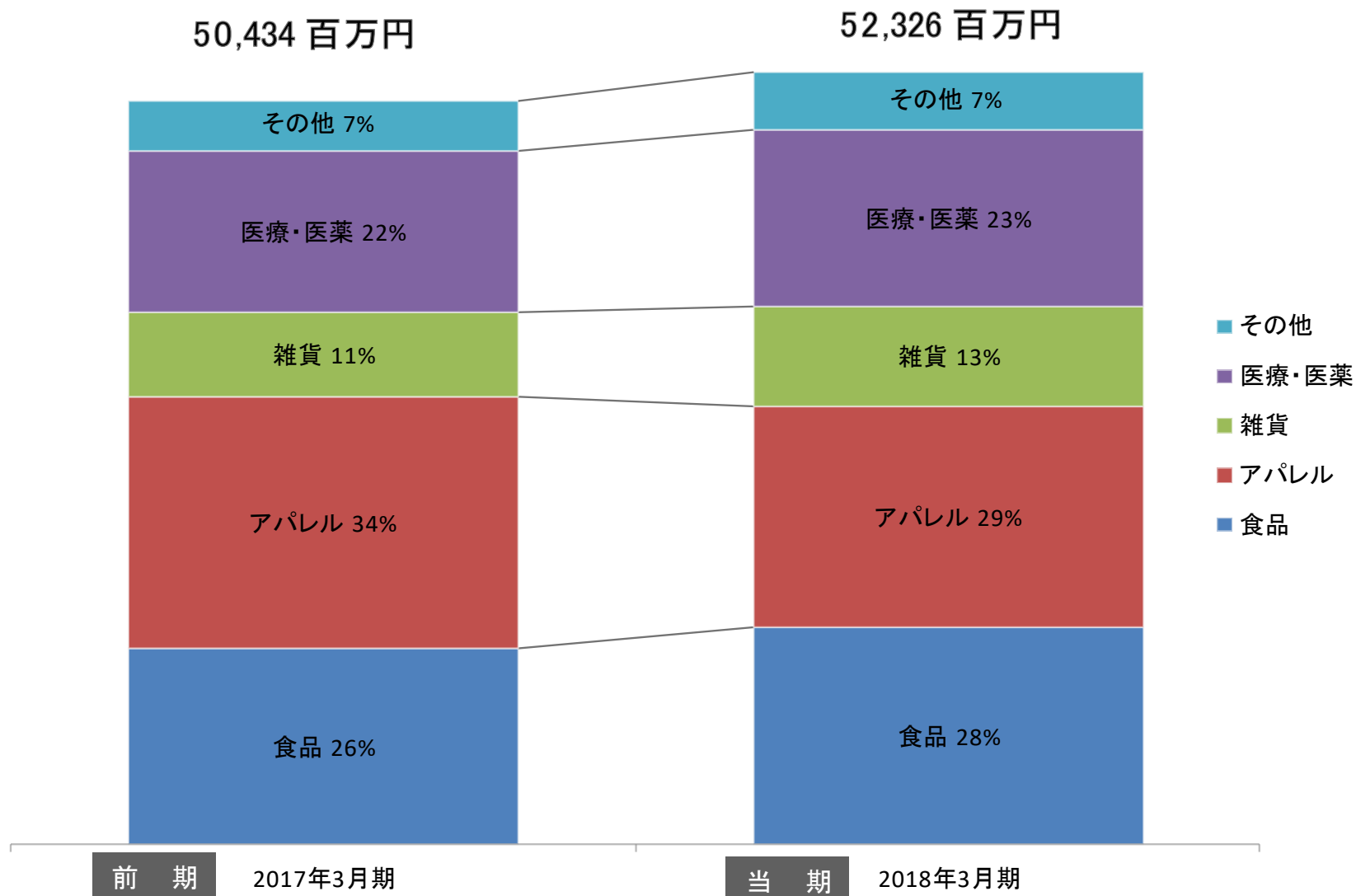


●物流センター数

2018年3月31日現在

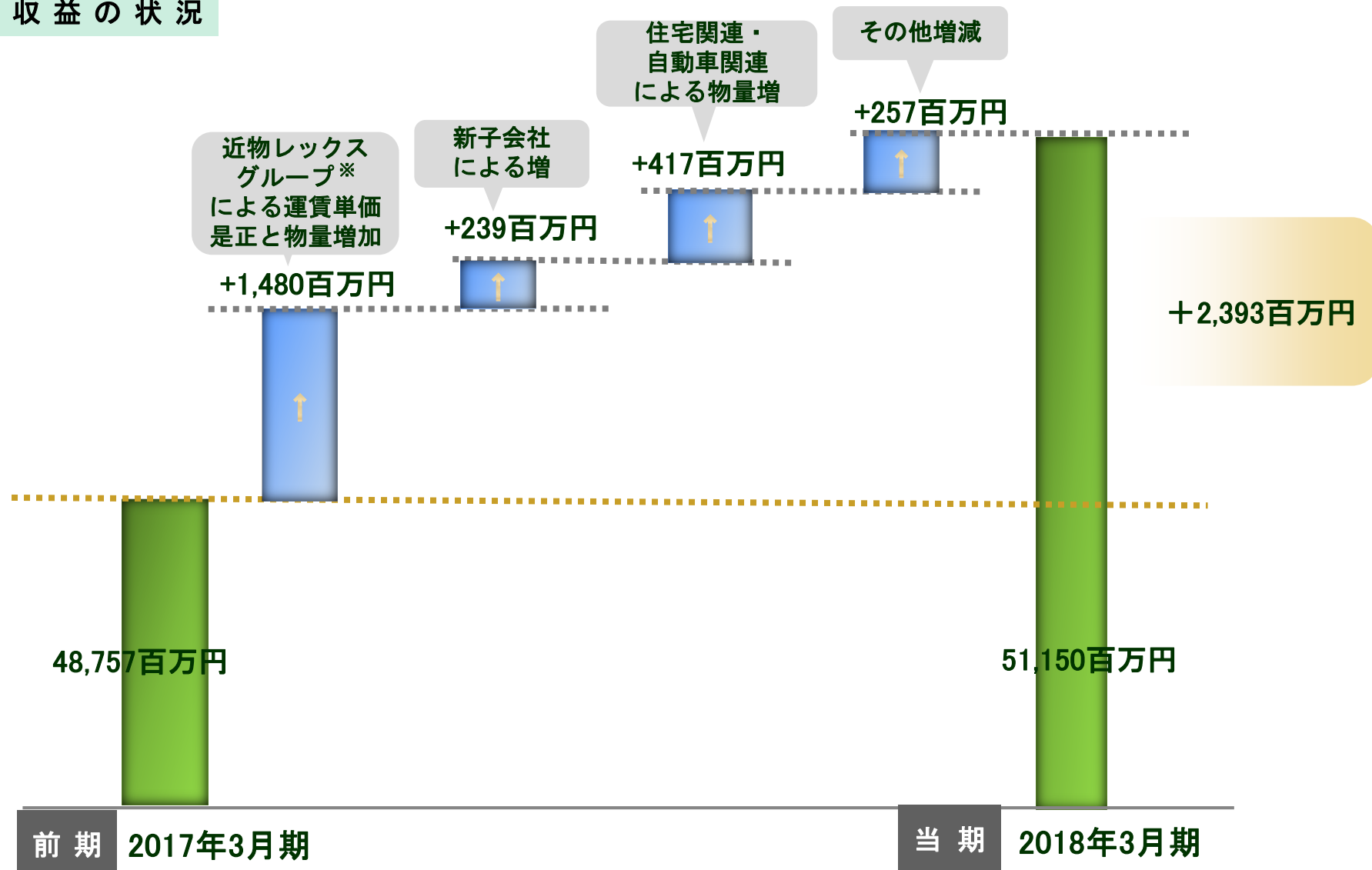
自社センター	35	(407,377m ²)
借用センター	68	(635,736m ²)
計	103	(1,043,114m ²)

I-6. 物流センター事業の取扱品目別売上高



I-7. 貨物自動車運送事業の概況

営業収益の状況



※近物レックスグループとは、近物レックス㈱とその子会社3社です。（都運輸㈱、三重近物通運㈱、茨城県貨物自動車運送㈱）

Ⅱ. 2019年3月期計画

Ⅱ-1. 2019年3月期 業績予想

(百万円)

	連結業績	
	計画	前期比 (増加率)
営業収益	108,000	+4,523 (+4.4%)
営業利益	9,600	+570 (+6.3%)
経常利益	10,000	+483 (+5.1%)
親会社株主に帰属 する当期純利益	6,000	+424 (+7.6%)
設備計画	6,000	***

(百万円)

セグメント別業績予想

		計画	前期比	(増加率)
物流センター事業	営業収益	55,500	+3,173	(+6.1%)
	営業利益	6,350	+342	(+5.7%)
貨物自動車 運送事業	営業収益	52,500	+1,349	(+2.6%)
	営業利益	3,250	+234	(+7.8%)

Ⅱ-2 . 経営指標

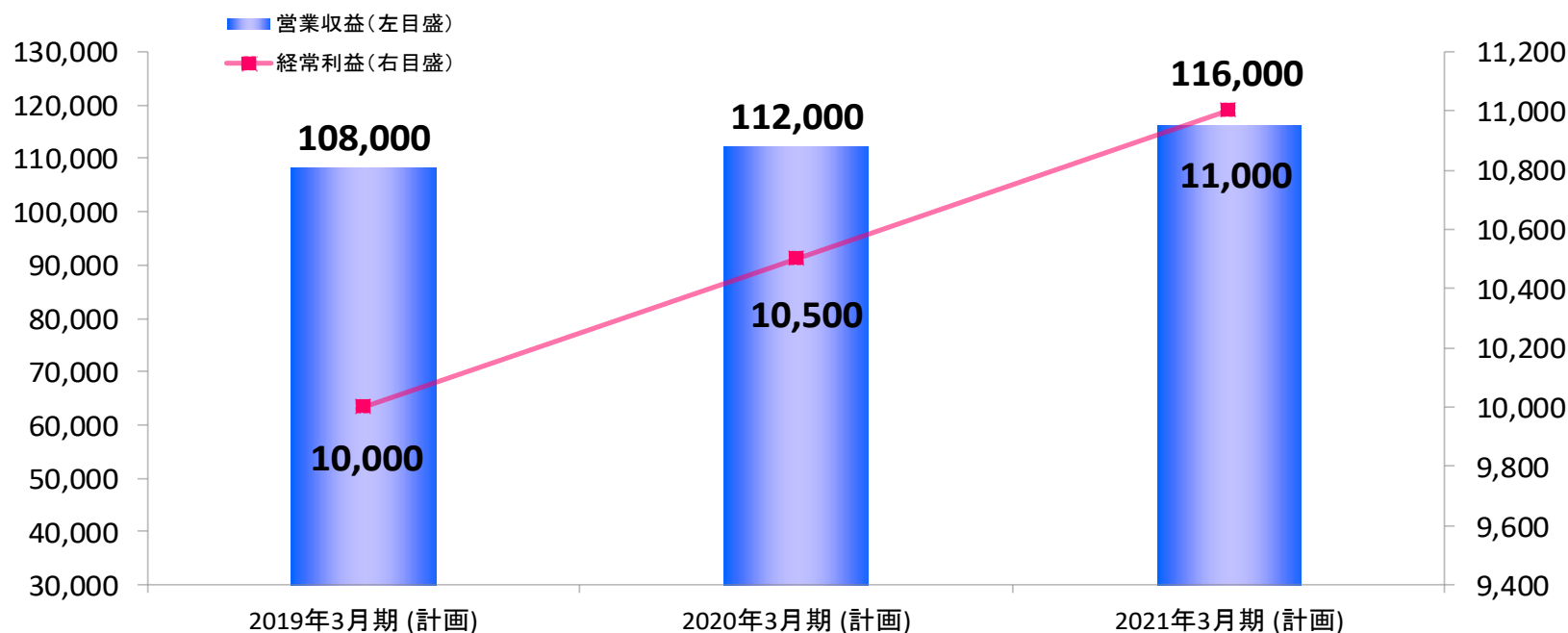
	2015/3	2016/3	2017/3	2018/3	2019/3予想
1株当たり当期純利益(円) 〔EPS〕	232.91	257.79	265.88	293.35	315.70
自己資本当期純利益率(%) 〔ROE〕	12.4	12.5	11.3	11.3	11.1
営業収益営業利益率(%)	7.3	8.5	8.0	8.7	8.9
1株当たり配当金(円)	44.00	27.50	40.00	45.00	52.00

※自己資本当期純利益率(ROE)は、10%以上を継続的に達成することを目指してまいります。

Ⅱ-3. 中期経営計画

(百万円)

	2019年3月期 (計画)	2020年3月期 (計画)	2021年3月期 (計画)
	連結	連結	連結
営業収益	108,000	112,000	116,000
経常利益	10,000	10,500	11,000
親会社株主に帰属する 当期純利益	6,000	6,300	6,600
1株当たり当期純利益	315.7	331.5	347.3
営業収益経常利益率	9.3%	9.4%	9.5%
設備投資計画	60億円	90億円	90億円



Ⅱ-4. 今後の取り組み

1. 既存路線を軸とする事業展開(拡大路線)

3PLを成長ドライバーとした戦略の継続

お客様とのコミュニケーションを重視し、提案型物流企業をめざす

人手不足及び更なる生産性向上のためのロボット・AI導入に向けた取り組み

ラストワンマイルのプラットフォーム構築を検討しEC物流への対応

センター立上時の初期コストの低減及び早期安定稼働をはかる

2. 3PL事業とグループ会社の融合

近物レックスの拠点網が充実している東北・東海・関西エリアでのシナジー強化を図る

グループ間で配車担当者とのコミュニケーションを強化し、グループシナジー強化を図る

3. 運送事業の取り組み

ドライバー確保のための運賃是正の推進及び労働環境の改善

近物レックスによる同業他社との共同施設及び共同配送の拡大

4. 新規顧客獲得に向けた取り組み

物流センター事業での年間受託目標15社以上の新規受託を達成する

5. 海外戦略への取り組み

国内の顧客満足度を向上させるため、ニーズに応じた海外展開を図る



Ⅲ. 2018年3月期 決算実績

Ⅲ-1. 四半期会計期間別(3ヶ月)の業績推移

(百万円)

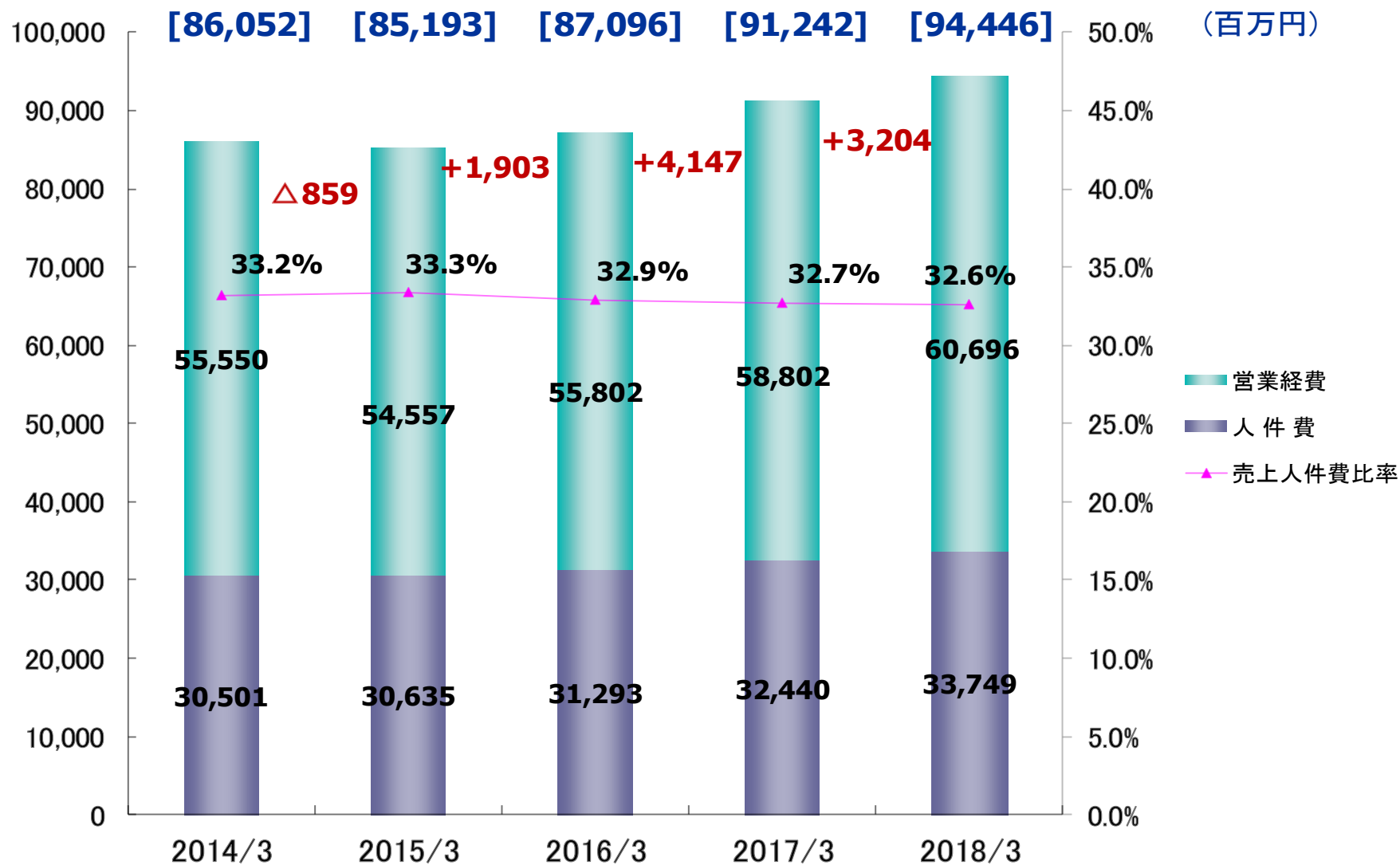
	第1四半期		第2四半期		第3四半期		第4四半期	
	当期実績	前期比 (増減率)	当期実績	前期比 (増減率)	当期実績	前期比 (増減率)	当期実績	前期比 (増減率)
営業収益	24,948	+275 (+1.1%)	25,269	+651 (+2.6%)	27,764	+1,809 (+7.0%)	25,493	+1,549 (+6.5%)
営業利益	2,073	+99 (+5.0%)	2,032	+162 (+8.7%)	2,829	+397 (+16.3%)	2,094	+422 (+25.2%)
経常利益	2,205	+130 (+6.3%)	2,166	+210 (+10.8%)	2,878	+278 (+10.7%)	2,265	+476 (+26.7%)
親会社株主に 帰属する 当期純利益	1,299	+113 (+9.6%)	1,222	+65 (+5.7%)	1,631	+91 (+6.0%)	1,421	+250 (+21.4%)

Ⅲ-2. セグメント別四半期会計期間(3ヶ月)の業績推移

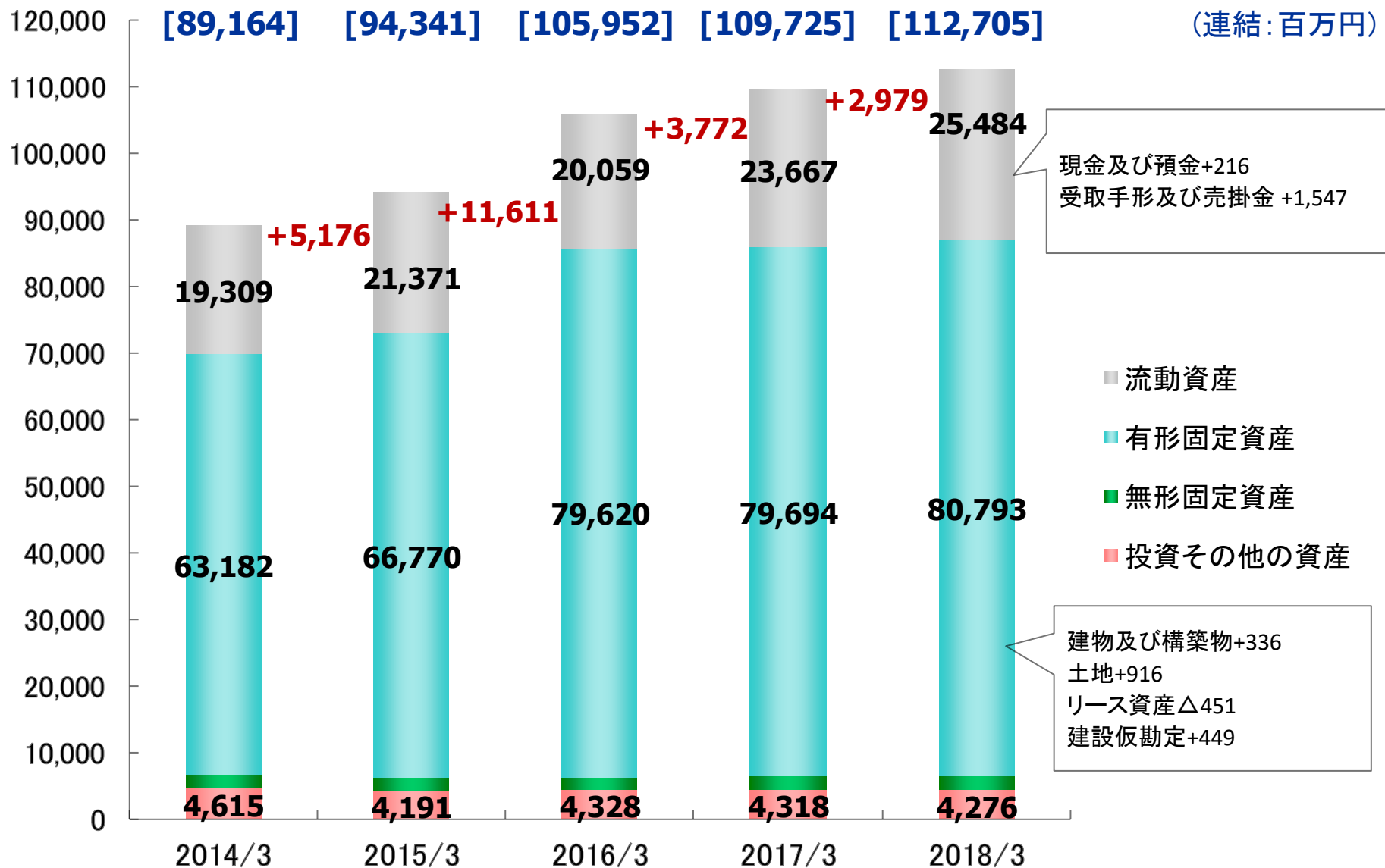
(百万円)

		第1四半期		第2四半期		第3四半期		第4四半期	
		当期実績	前期比 (増減率)	当期実績	前期比 (増減率)	当期実績	前期比 (増減率)	当期実績	前期比 (増減率)
物流センター	営業収益	12,470	△174 (△1.4%)	12,690	+68 (+0.5%)	14,211	+836 (+6.3%)	12,954	+1,161 (+9.9%)
	営業利益	1,400	+130 (+10.3%)	1,301	+165 (+14.6%)	1,799	+206 (+13.0%)	1,506	+390 (+35.0%)
貨物自動車運送	営業収益	12,478	+450 (+3.7%)	12,579	+582 (+4.9%)	13,552	+973 (+7.7%)	12,538	+387 (+3.2%)
	営業利益	671	△31 (△4.5%)	729	△3 (△0.5%)	1,027	+190 (+22.7%)	586	+31 (+5.7%)

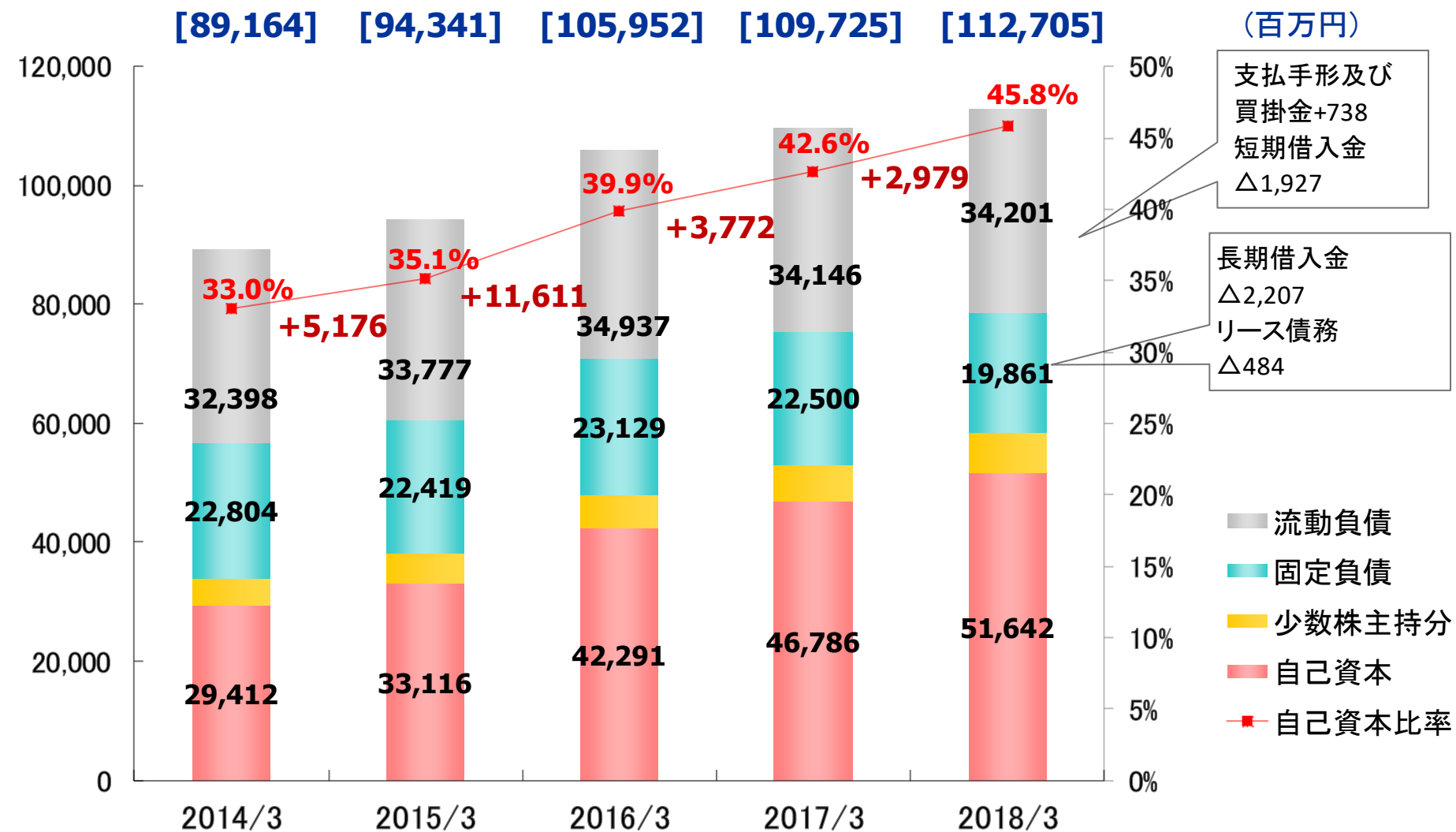
Ⅲ-3. 経費・人件費



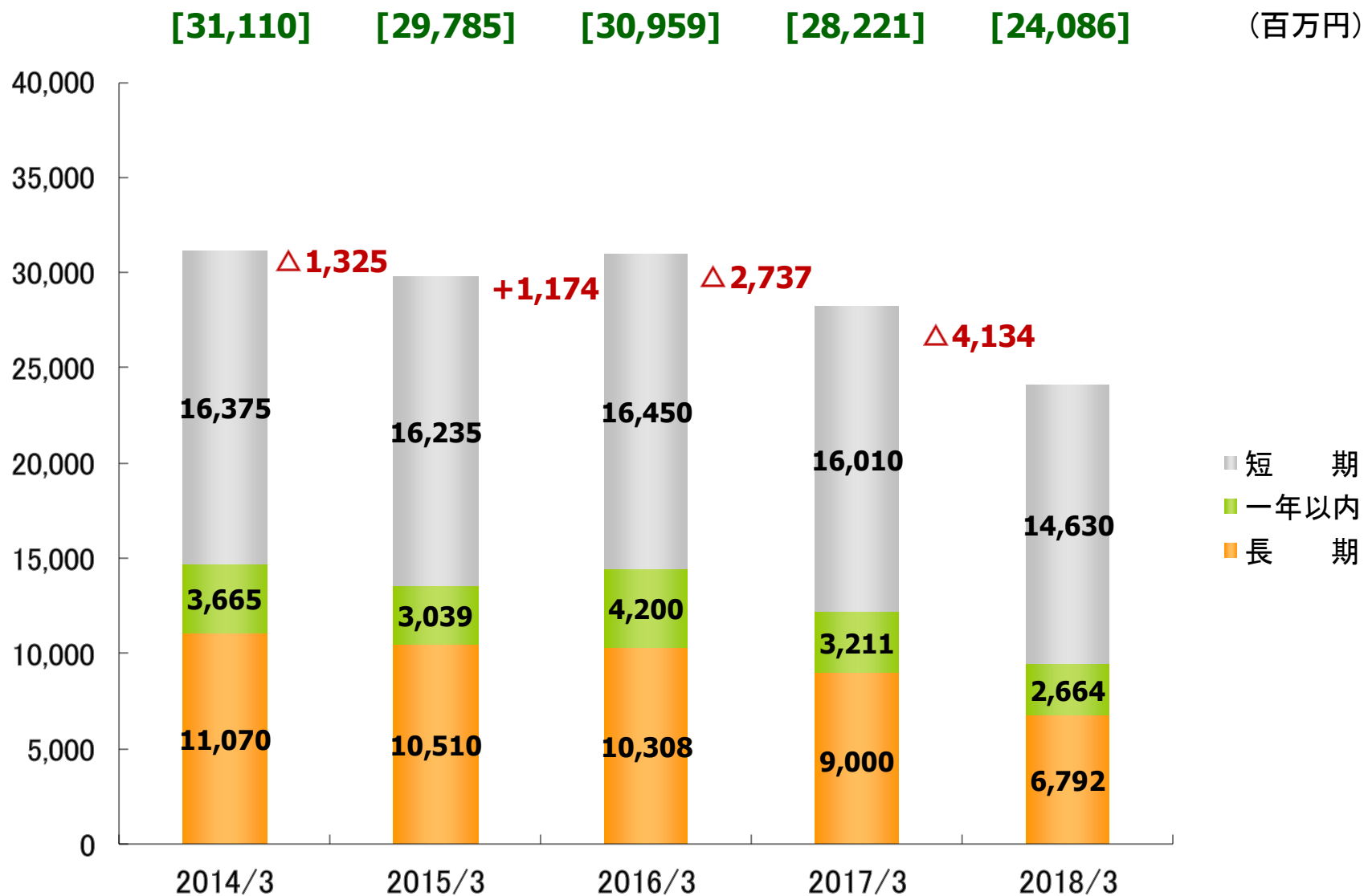
Ⅲ-4. 貸借対照表<資産>



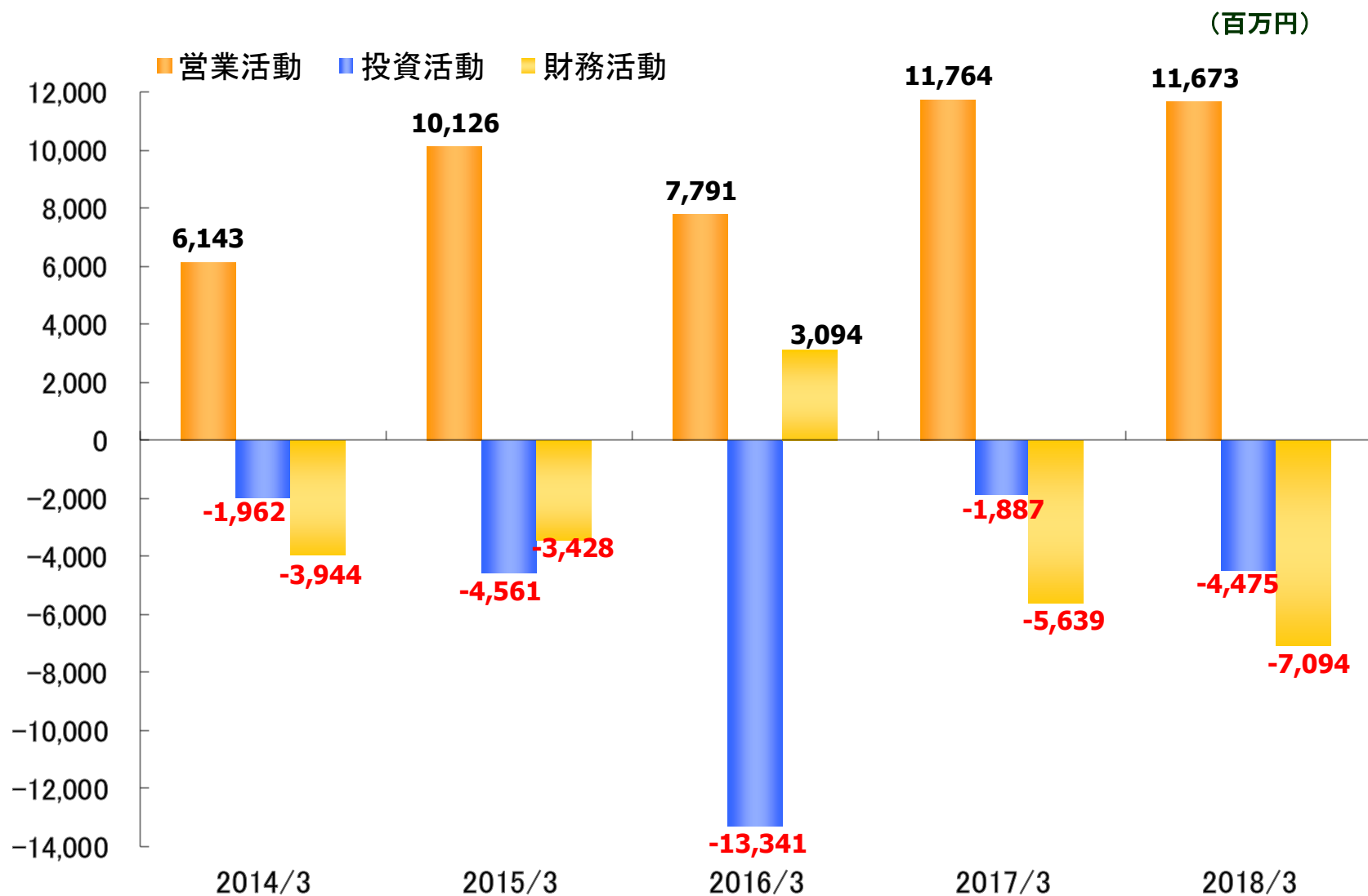
Ⅲ-5. 貸借対照表＜負債・純資産＞



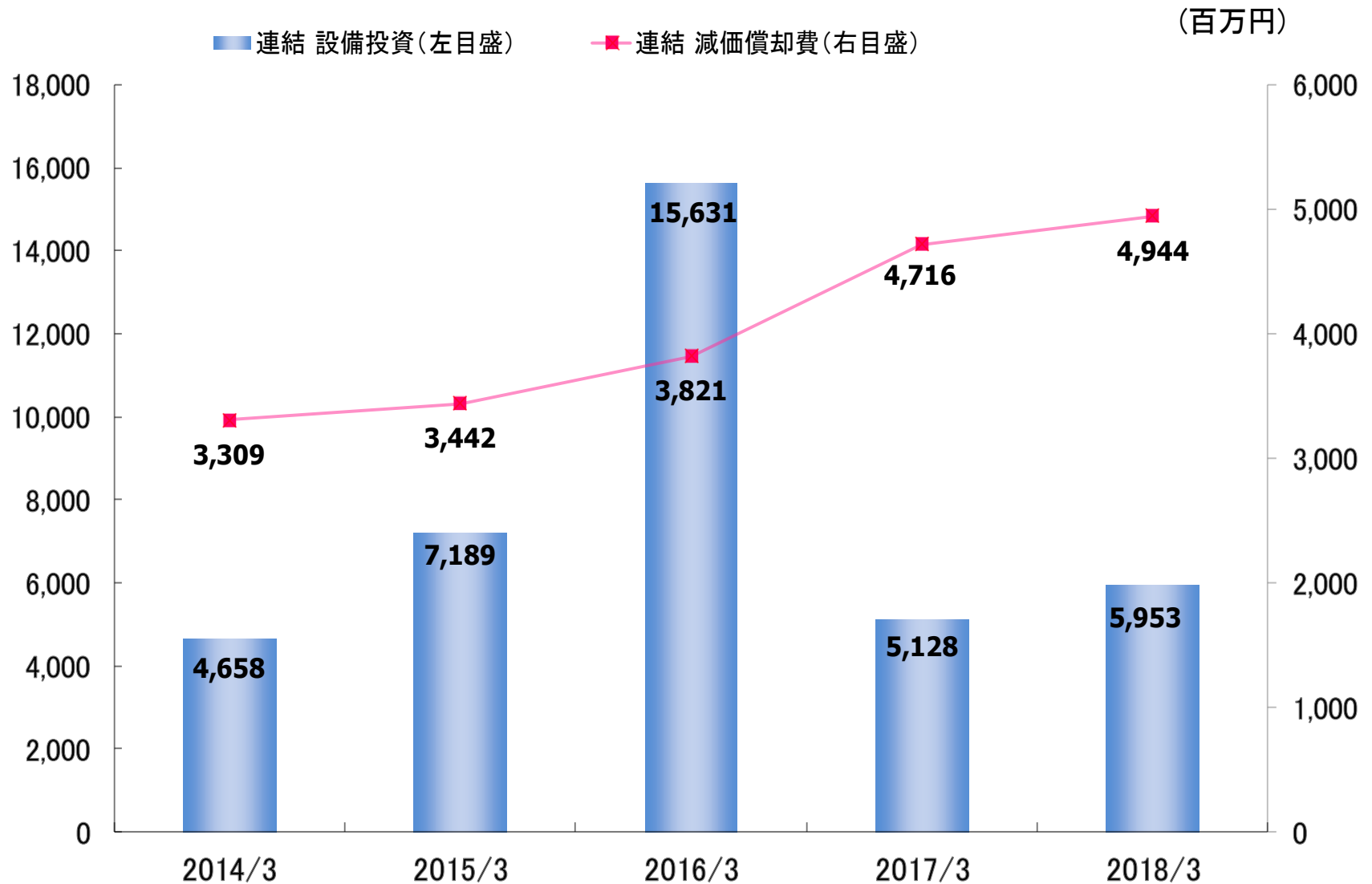
Ⅲ-6. 有利子負債（借入金）



Ⅲ-7. キャッシュ・フロー



Ⅲ-8. 設備投資・減価償却費



IV. 近物レックスの現況 と 今後の戦略



IV-1. 近物レックス 2018年3月期業績

(百万円)

	実 績			計 画	
	2017/3	2018/3	前期比 (増減率)	2018/3	計画比 (増減率)
営業収益	35,555	36,913	+1,358 (+3.8%)	37,386	-472 (-1.2%)
営業利益	1,652	1,743	+90 (+5.4%)	2,162	-419 (-19.3%)
経常利益	1,665	1,768	+103 (+6.2%)	2,138	-369 (-17.2%)

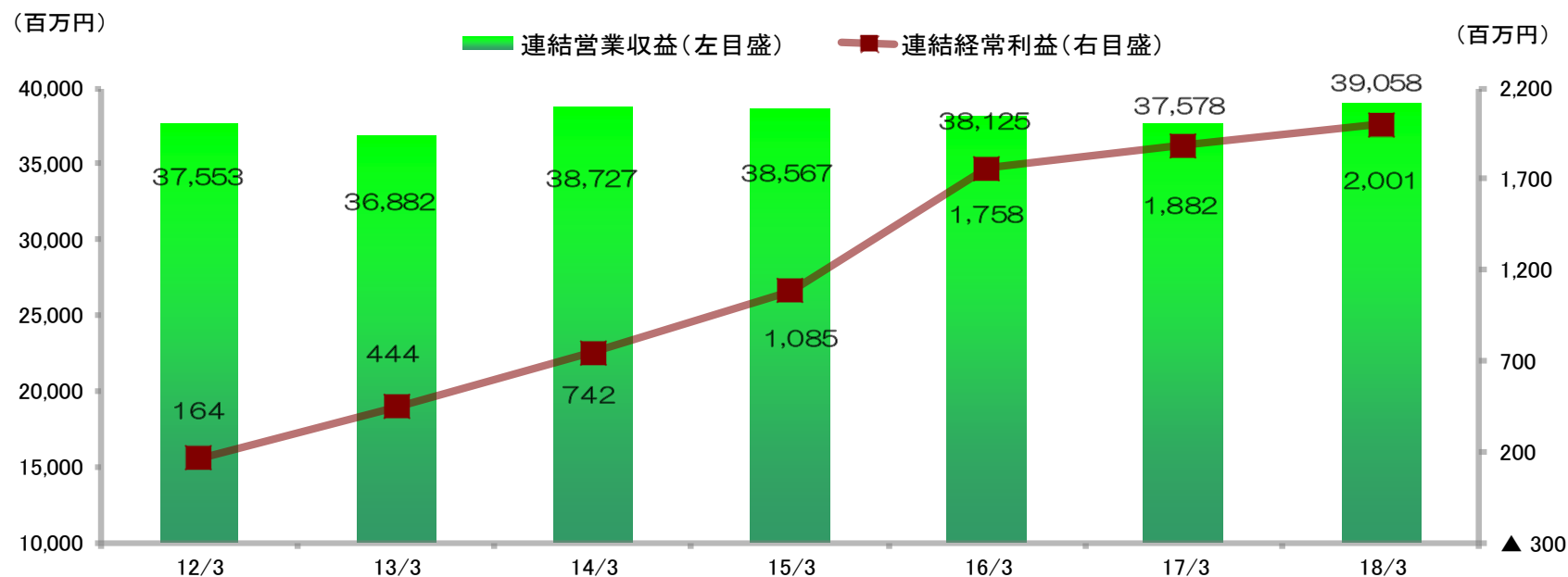
IV-2. 近物レックス 業績推移

(百万円)

	近物レックスグループ(連結子会社含む)						近物レックス単体	
	2014/3	2015/3	2016/3	2017/3	2018/3	増減額 (率)	2018/3	増減額 (率)
営業収益	38,727	38,567	38,125	37,578	39,058	+1,479 (+3.9%)	36,913	+1,358 (+3.8%)
営業利益	856	1,113	1,743	1,869	1,974	+105 (+5.6%)	1,743	+90 (+5.4%)
経常利益	742	1,085	1,758	1,882	2,001	+119 (+6.3%)	1,768	+103 (+6.2%)
当期純利益	299	576	1,087	1,247	1,413	+166 (+13.3%)	1,259	+158 (+14.3%)

※近物レックスグループ: 近物レックスの直接子会社を含めた連結数値となります。

IV-3. 近物レックス収益構造



	連結業績	個別業績
営業収益	増収	増収
営業利益	11期連続増益	11期連続増益
経常利益	6期連続増益	6期連続増益
当期純利益	9期連続増益	4期連続増益

IV-4. 近物レックスの2018年3月期の成果

1. 適正利益の確保

- ・ 運賃値上げ
- ・ 貸切輸送・倉庫事業の収益拡大
- ・ 輸送の効率化（東北新規受注・アライアンス）
- ・ 固定費用の圧縮（金融費用）



2. 安全への取組み

- ・ 3大事故（車両・労災・商品）の撲滅
- ・ 環境整備



IV-5. 近物レックスの2019年取組み

1.収益性の向上

- ・ 運賃値上げの継続
- ・ 特殊輸送の拡張
- ・ アライアンスの拡大
- ・ グループとの融合

2.輸送の安全

- ・ 車両事故の撲滅（社内ルールの徹底・教育対象の拡大）
- ・ 管理職の教育充実
- ・ 輸送品質向上（店舗毎に重点施策を明確化）
- ・ 環境整備（整理整頓・老朽箇所の修繕）

3.雇用促進

- ・ 多角的な採用（HP・会社案内・IT・社員紹介・グループ採用）
- ・ 労働環境の改善
- ・ 賃金改定

4.設備投資・その他

- ・ 設備投資（車両・荷役・ドラレコ更新・店舗修繕・新店舗）
- ・ 健全な経営（借入返済・法令遵守・任意保険加入）



IV-6. 近物レックス 業績予想

(百万円)

	実 績 2018/3	計 画	
		2019/3	計画比 (増減率)
営業収益	36,913	38,357	+1,443 (+3.9%)
営業利益	1,743	2,010	+267 (+15.3%)
経常利益	1,768	2,000	+231 (+13.0%)

V. 参考情報



「物」に携わる者として、

「人と接するときは、**心**を込めて」

「仕事をするときは、**初心**を忘れず前向きに」

「物を扱うときは、**心**を込めて丁寧に」

「物を運ぶときは、**心**を込めて安全に」

「如何なるときにも感謝の**心**を大切に」

を基本テーマに取り組んでおります。

V-2. 経営方針

物流の役割は駅伝でいえば最終ランナー、
地味ではあるが信頼された重要な存在。
当企業グループは信頼に応じて効率的な事業活動の
展開と継続的で質の高い成長を図り、
お客様第一、品質第一を基本に、企業としての
社会的責任を果たしてまいります。
また、短期的な収益にとらわれず、
長期的な視点に立った経営を行い、3PL物流における
質的内容の日本一を目指します。



会社概要（2018年3月31日現在）

● 社 名	株式会社ハマキョウレックス (HAMAKYOREX CO., LTD.)
● 設 立	昭和46年2月
● 資 本 金	65億47百万円
● 決 算 期	3月31日
● 従 業 員 数	連結 4,448名
● 発 行 済 株 式 数	19,012,000株
● 株 主 数	3,081名
● 事 業 内 容	物流センター事業（3PL）、貨物自動車運送事業
● 連 結 子 会 社	17社
● 売 上 高 (2018年3月期)	連結 1,034億76百万円
● 経 常 利 益 (2018年3月期)	連結 95億16百万円

V-4. 事業紹介

当社グループは、
物流センター事業と貨物自動車運送事業を中心に
展開しております。



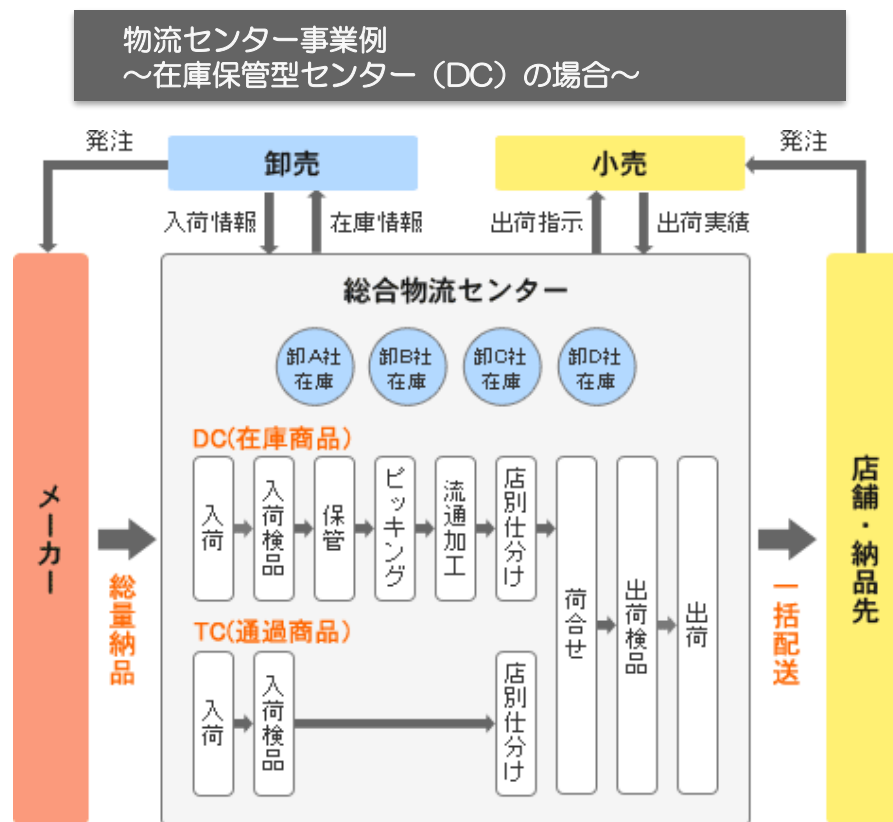
V-5. 物流センター事業

当社は **3 P L (3rd Party Logistics)** をおこなっております。

3 P L とは、『荷主様に対して物流改革を提案し包括して物流業務を受託すること』であり、一般的には、『荷主様が物流業務を外部委託（アウトソーシング）すること』を指します。

3 P L の主な目的は、「物流コスト削減」「戦略的ロジスティクスの構築による利益追求」です。

お客様にとって最適な物流通をご提案し、「物流を通じてお客様へ利益を還元する」ことが最も重要な役割であると考えております。



コスト競争力 現場力

当社は、「**コミュニケーション**」を重要視し、社員・パート・アルバイトを含めた「**全員参加**」による現場主導での自社運営を実施。「**日計収支**^{※1}」・「**アコーディオン方式**^{※2}」によるコスト削減を荷主様へ提案し、物流費削減を支援いたします。

※1 日計収支とは、各拠点で、日々決算を行い、その日1日の損益を把握する仕組みです。これにより、その日の問題点を翌日の改善につなげ、日々の無駄なコストを削減していくための当社の仕組みであります。

※2 アコーディオン方式とは、日々の物量(仕事量)にあわせ、最適(最小限)な人員投入を行う仕組みです。これにより日々最適な人員体制を敷くことで、余分なコスト発生を抑えることができます。

V-7. 拠点紹介



IR関係問合せ先・担当者

● 執行役員 管理部長

● 経営企画室 室長

TEL 053-444-0054

山田 力也

竹内 義之



将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。